

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/10/01

日米金融政策が焦点に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	追加緩和期待と利上げ期待 予想レンジ: 117.000~ 124.500 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	注目材料は多いが決定打に欠ける 予想レンジ: 88.000~92.700円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

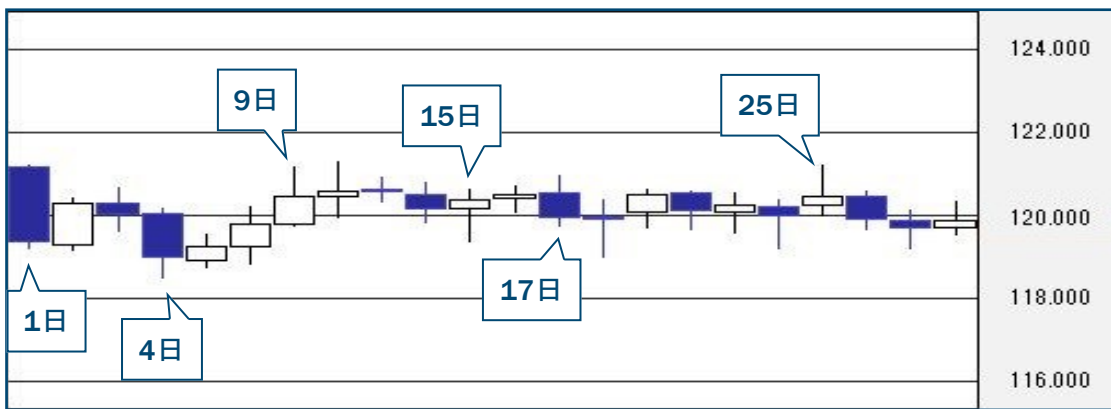


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 9月の推移

9月のドル/円相場は118.532～121.321円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.1%の下落(ドル安・円高)となった。前半にひとしきり上下に振れた後は、120円を挟んだもみ合いのまま119円台後半で取引を終えた。月間の値幅は約2.8円に留まっており、これは4月の約2.3円に次いで今年2番目の小動きという事になる。中国経済への不安などを背景に、資源価格や主要国株価が弱含んだ上に、それらに配慮して米連邦公開市場委員会(FOMC)が利上げを見送るなど、本来なら為替相場の大変動に繋がってもおかしくない地合いであったが、四半期末という季節性も影響したのか、やや動意を欠く展開であった。



四本値	
OPEN	121.217
HIGH	121.321
LOW	118.532
CLOSE	119.889

1日	中国8月製造業PMIは予想通りとはいえ49.7と節目の50を割り込んで低下。これを受けてアジアや欧州各国の株価が軒並み大幅に値を下げる中、ドル売り・円買いが活発化。その後、米8月ISM製造業景況指数が51.1と予想(52.5)を下回った事もあってNYダウ平均が下落する中、米長期金利が低下幅を拡大すると、取引終了間際に119.242円まで下落した。
4日	米8月雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比17.3万人増と予想(21.7万人増)を下回った一方、失業率が5.1%(予想:5.2%)と2008年4月以来の水準に改善。また平均時給も前月比+0.3%、前年比+2.2%と予想(+0.2%、+2.1%)を上回った。これを受けて118.50円台に下落したのち119.60円台に切り返すなど乱高下したが、その後は米国株の下落につれて米長期金利が低下したため再び118円台に押し戻された。
9日	米7月JOLT求人数が575.3万件と統計開始(2000年)以来の最高水準を記録すると121円台にドル高が進んだ。ところが、JOLT求人数を受けて早期利上げ期待が高まり長期金利が上昇した事や、NY原油が44ドル台に下落した事を嫌気してNYダウ平均が下落に転じると120.40円台まで押し戻された。
15日	日銀が金融政策の現状維持を決め、その後の会見で黒田総裁が「企業、家計ともに所得から支出の前向き循環がしっかり作用している」「物価目標2%に達するのは2016年度前半ごろになる」などと従来どおりの見解を示した事から、一部にくすぶっていた追加緩和期待が後退し119.40円前後まで円が買い戻された。しかしその後、米8月小売売上のコア売上高(自動車、ガソリン、建材、外食を除く)が前月比+0.4%と予想の+0.3%を上回った(総合指数は+0.2%と予想の+0.3%を下回ったが前月分が+0.6%から+0.7%に上方修正)事からドル買いが強まると120円台を回復した。
17日	米FOMCは、利上げと据え置きで市場の見方が分かれる中、政策金利の据え置き(0.00-0.25%)を決めた。声明では「経済は緩やかなペースで改善を続けた」などと前向きな判断を示しながらも「最近の国際情勢が経済活動を幾分抑制する可能性がある」として先行きに警戒感を示した。また、同時に発表した経済見通しで2015年と16年のPCEインフレ率の予想中央値を6月時点から引き下げた他、政策金利見通しでも15年から17年の各年末時点におけるFF金利の予想中央値を引き下げた。その後、イエレン米連邦公開市場委員会(FRB)議長が10月も含む年内利上げの可能性は維持しつつも「インフレは目標を下回る水準が続く」「最近の国際動向はインフレへの下方圧力につながる公算」などと低インフレへの懸念を表明した。総じて利上げに慎重なハト派姿勢が覗えるFOMCとなったため、ドル売りが活発化した。
25日	前日最終盤にイエレンFRB議長が「利上げを長く待ち過ぎることはインフレや過度なレバレッジのリスクになる」「最近の世界経済や金融の進展が政策の方向に著しく影響するとは予想しない」「自分も含めてFOMCの大半のメンバーが2015年の利上げを予想している」などと発言した事を受けてドルが買われた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.7336%
HIGH	0.8148%
LOW	0.6250%
CLOSE	0.6289%

米10年債利回

OPEN	2.2126%
HIGH	2.3012%
LOW	2.0332%
CLOSE	2.0368%

日経平均

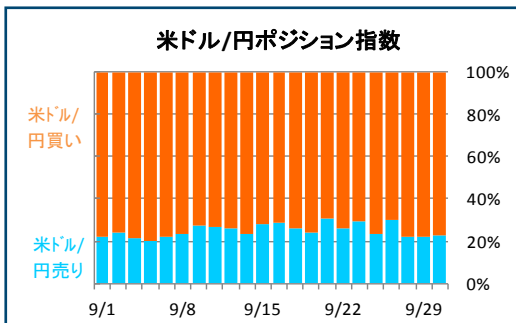
OPEN	18763.72
HIGH	18777.47
LOW	16901.49
CLOSE	17388.15

NYダウ平均

OPEN	16528.03
HIGH	16933.43
LOW	15942.37
CLOSE	16284.70

9月のポジション動向

10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)


- ・9月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・9月米雇用統計(2日)
- ・9月米ISM非製造業景況指数(5日)
- ・8月米貿易収支(6日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7日)
- ・米FOMC議事録(8日)
- ・9月米小売売上高(14日)
- ・9月米消費者物価指数(15日)
- ・9月米鉱工業生産(16日)
- ・7-9月期中国GDP(19日)
- ・9月米住宅着工件数(20日)
- ・米FOMC(27-28日)
- ・7-9月期米GDP・速報値(29日)
- ・9月日本消費者物価指数(30日)
- ・日銀金融政策決定会合(30日)

10月の見通し

10月相場の焦点は日米の金融政策だろう。月内に2回開催される日銀金融政策決定会合のうち、展望レポートの点検(見直し修正)を行う30日の会合で追加緩和を期待する声が強。6-7日の会合で緩和を見送ったとしても、黒田総裁が「物価目標の早期実現に必要であれば、ちゅうちょなく調整を行う」との姿勢を撤回しない限り、市場の追加緩和期待はなくなると見られ、円安方向への誘導要因となろう。ただ、黒田総裁は市場の見方とは異なり景気と物価の先行きに自信を示している。日銀が追加緩和を見送る公算も小さくないため、会合後は「失望の円高」に振れる可能性を意識しておく必要もありそうだ。

一方、米国では27-28日にFOMCが開催される。この会合はイエレンFRB議長の会見予定がないことから、利上げは見送られるとの見方が一般的だが、利上げの可能性を完全に排除する事はできそうにない。イエレン議長は9月FOMC後の会見で「10月会合も含め、全ての会合で利上げの可能性はある」と発言しており、議長会見の予定がない会合でも、利上げの場合は臨時会見を開く意向を示している。2日の9月雇用統計や14日の9月小売売上高などの主要経済指標が好内容なら、10月利上げの期待が高まる事になっても不思議ではない。もっとも、そのためには、FOMCが9月の利上げを見送った理由のひとつである「国際情勢」が、落ち着きを取り戻す事が欠かせない。引き続き、主要国の株価や国際商品価格の動向もドル/円相場の動きに強い影響を与えるだろう。(神田)

(予想レンジ: 117.000~124.500円)

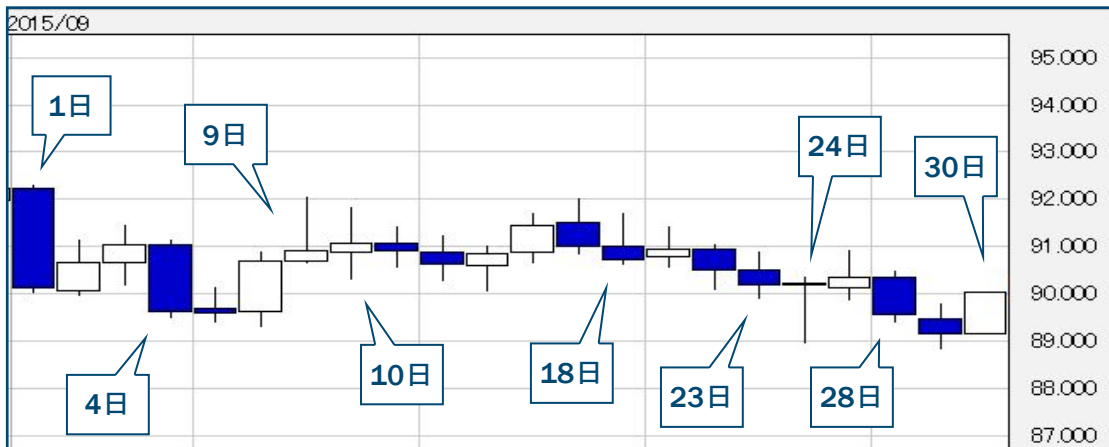
カナダ/円 9月の推移

CAD/JPY

9月のカナダ/円相場は88.866～92.294円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.4%の下落(カナダドル安・円高)となった。

中国経済の減速懸念が根強い中で主要国株価が下落した上、独自動車大手VWが排ガス規制をクリアするために不正を行った事が明らかとなり欧州株が急落した事も重石となって、カナダ/円は軟調に推移。29日に月の安値となる88.866円を付けた。

なお加中銀(BOC)は声明で追加利下げに消極的な見通しを示した事からカナダ/円が上昇する場面が見られたが、世界的な株安の中ではカナダ/円の軟調推移を止めるには不十分であった。



四本値

OPEN	92.237
HIGH	92.294
LOW	88.866
CLOSE	90.058

1日	日経平均やNYダウ平均の大幅下落を受けてリスク回避の動きが強まり、カナダ/円は90.053円まで下落した。なお、加6月国内総生産(GDP)は前月比+0.5%、4-6月期GDPは前期比年率-0.5%と予想(+0.2%、-1.0%)を上回るも、2期連続でマイナスとなった事から、カナダ/円の反応は限定的であった。
4日	日経平均が軟調に推移する中でカナダ/円も軟調に推移した。加8月雇用統計は、失業率が7.0%、雇用ネット変化が1.20万人増(予想:6.8%、0.50万人減)と強弱まちまちの結果となり、直後のカナダ/円相場の反応は限定的。その後はNYダウ平均が軟調に推移し、NY原油相場が冴えない中で89.511円まで一段安となった。
9日	軟調に推移していた上海株が急速に切り返した事から円売りが優勢となり、カナダ/円は上昇。その後BOCは政策金利の据え置き(0.50%)を発表。声明で「これまでの金融政策措置の刺激効果が、カナダ経済に徐々に浸透しつつある」とし、早期の追加利下げについて消極的な見方が示された事からカナダドル買いが優勢となり、92.056円台まで一段高となった。
10日	自民党の有力議員・山本幸三氏が「追加緩和は日銀の10月30日会合が良い機会」「16年度前半頃の物価目標達成は至上命題」などと述べた事を受け、追加緩和期待が広がり、円安が瞬間的に進行。カナダ/円は91.50円台まで値を上げた。
18日	加8月消費者物価指数は前月比±0.0%、前年比+1.3%。コア指数は前月比+0.2%、前年比+2.1%と、いずれも予想通りの結果であったため、カナダ/円相場の反応は薄かった。
23日	加8月小売売上高が前月比+0.5%、自動車を除いた前月比±0.0%と予想(+0.7%、+0.5%)を下回るも、カナダドル売りの動きは一時的。その後はNYダウ平均の軟調推移やNY原油の急落が重石となり、89.912円まで下落した。
24日	独自動車大手VWに続いてBMWの一部車種でも排ガス規制の基準値を超える窒素酸化物が検出されたとの報道をきっかけに欧州株が下落に転じると、リスク回避の円買いが活発化してカナダ/円は88.985円まで下落。しかしその後、一時43ドル台まで下落したNY原油相場が45ドル台を回復した事から、90.20円台まで反発した。
28日	アジア市場中に発表された中国8月工業部門企業利益が前月から大きく低下した事を蒸し返す形で、欧米株安が進行。カナダ/円は89.433円まで下落した。
30日	加7月GDPが前月比+0.3%と予想(+0.2%)を上回り、2カ月連続でプラスとなった事からカナダ/円は上昇。NYダウ平均の堅調推移やNY原油相場の持ち直しなどもあり、90.062円まで一段高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	1.437%
HIGH	1.608%
LOW	1.416%
CLOSE	1.432%

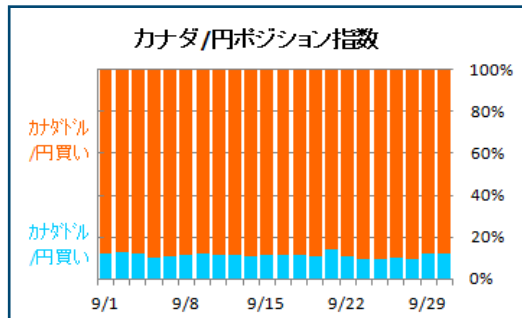
N Y 原油

OPEN	48.10
HIGH	48.87
LOW	43.21
CLOSE	45.09

NYダウ平均

OPEN	16528.03
HIGH	16933.43
LOW	15942.37
CLOSE	16284.70

9月のポジション動向



10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・9月米雇用統計(2日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7日)
- ・9月加雇用統計(9日)
- ・9月中国貿易収支(13日)
- ・9月米小売売上高(14日)
- ・9月米消費者物価指数(15日)
- ・中国7-9月期GDP(19日)
- ・カナダ総選挙(19日)
- ・加中銀政策金利発表(21日)
- ・8月加小売売上高(22日)
- ・10月中国財新製造業PMI・速報(23日)
- ・9月加消費者物価指数(23日)
- ・米FOMC(27-28日)
- ・日銀金融政策決定会合(30日)
- ・8月加GDP(30日)
- ・原油相場、主要国株価

10月の見通し

9月のカナダ/円相場は手掛かり材料こそ多数あったが、いずれも相場を動かす軸にはならなかったため、方向感が定まらなかった。10月もカナダ/円相場を取り巻く材料が多数ある中、どれが取り上げられるかを見極める事となりそうだ。

まず株価や原油相場について見てゆきたい。足元で中国経済の減速が懸念される中、引き続き中国を始め主要国株価の動向に注意が必要である。減速懸念が強まって株安や原油安が進む場面ではカナダ/円相場の重石となりそうだ。

次にカナダ国内では、BOC理事会(21日)とカナダ総選挙(19日)に注目である。BOC理事会について、インフレ率は目標レンジ(年1~3%)の上半分での推移が続いている事や、加経済はリセッションに入るも月ベースのGDPは2カ月連続でプラスとなっている事、原油相場が落ち着いている事などから、今回は金利を据え置く可能性が高いと見る。その際に発表される声明で、今後の政策スタンスや加経済の見通しを確認したい。

その他、日銀については追加緩和観測が根強い事から、日銀金融政策決定会合(6-7日、30日)前後では円主導での動き出しに警戒が必要だろう。(川畑)

(予想レンジ: 88.000~92.700円)